

日本ソーラー・人力ポート協会

発行人 事務局 八木正生  
発行日 2008.04.30

## 会報56号

	頁
1 御挨拶	堀内浩太郎 1
2 協会事務局よりの御知らせと、お願い	八木 正生 2
3 韓国大会の日程が決まりました	深町得三 4
4 ポートショー2008・in 横浜のご報告	堀内浩太郎 5
5 フォイルカヤックの発売は5月	堀内浩太郎 10
6 マイクロトランサットチャレンジその後	鵜沢、堀内 14

## ご挨拶

2008年も4月、新年度となり、ぴかぴかの1年生を街中で見かけるようになりました。今年の夏の清水大会の開催期日も決まり、出場チーム、協会、実行委員会の皆様も、これから大会当日まで作業を続けて行くこととなりますが、マンネリに陥らず、新しいことにチャレンジして行きたいものです。

会報55号、56号の購読は、協会のホームページにアクセスした全員が、購読できます。(パスワードのシステム構築が遅れたための緊急避難としての処置です)

会員の本年度の会費が、1000円値下がりし、3000円になりました。新聞で見る通り、全ての物価が値上がりしている昨今、1000円と言えども、有り難い事です。

今年は韓国での人力ポート大会が、10年目の節目を迎えたのを記念して、日本からも多くのチームが、参加して頂きたいと思います。開催期間も8月盆休みの季節で、多くの会社の夏休みの時期でもありますので、個人参加、チーム参加を問いませんので、多くの方々に訪韓していただきたいと思います。

今年のポートショウの、コンセプトポートコーナーは、当協会の会員の皆様方のポート展示場の館がありました。展示参加いただいた皆様ご苦労様でした。

当会の大会開始当初よりソーラー、人力、両部門に参加されている、チームビレッジトップの村上さんが、マリンスポーツ財団の笹川会長から表彰を受けました。おめでとうございます。

フォイルカヤックが発売になるようです。円高ですが、それにも増して、ユーロ高になっていますのが少し気になりますが、清水の大会で、スーパーフェニックスの横山さんの水中翼カヤックとの一騎打ちのエキジビジョンマッチなど見てみたいものです。

今年は、例年になく、暖かい、過ごし易い日々が続いていますが、皆様ご自愛の上、夏に向けて楽しい夢を広げて頂くようお願い致します。

2008年4月吉日

八木 正生

## 協会事務局よりのお知らせと、お願い

### “ソーラー&人力ポートレース全日本選手権大会2008” 開催のお知らせ

開催の期日が決定しました。4月26日、実行委員会を開催し、標記大会を7月20日(日)・21日(祝日・海の記念日)の両日開催する事に決定しました。

今後大会の諸事項については、実行委員会で決めてまいります。昨年の大会と大幅に変わるところは少ないと思います。

技術フォーラムも技術交流会と名称を変えて、広く参加チームの技術についての意見交換を行う場にしていく考えです。

### 協会会費の変更と、会報の電子化のお知らせ

昨年末より協会会報の電子化以降に関して、本年当初より本稼動する計画でしたが、計画案はいろいろ提案されましたが、実行が伴わず、現在まで、大きな変化はありませんが、4月になり、2008大会も近づき、足元に火が着いてきましたので、慌てて皆様に報告する次第です。

#### 会費の変更(値下げ)

年会費を3000円に変更することになりました。

電子化にすることにより、今までの印刷代、郵送代の出費がなくなる代わりに、ADSLから光回線に変更によるプロバイダー料金の値上がり、ホームページのメンテナンスに対する御礼金など、増加する項目もあります。

協会の健全な体質維持のため、2008年より会費を3000円と致しますので、ご了承頂きたいと思います。

### 会報の電子化について

ご存知のように、会報 5 5 号より電子化して、協会のホームページ上で購読できるように致しました。

本来、会員以外の人には、目次のみ、会員は、パスワードを用いて会報を開くと購読できるシステムに作り上げるつもりでしたが、残念ながら会報 5 6 号も準備不足のため、ホームページにアクセスすれば、どなたでも読むことが出来る、オープンタイプの物になりました。

5 7 号よりは、クローズタイプのものに変更しますので、ご了承頂きたいと思います。

### ブログページの新設

協会の活動について、会員の皆様方より広くご意見を頂ける様にホームページ上に協会にブログページの入り口を新設しました。

当初は何方でも（会員以外の方でも）ブログの書き込みが出来るようにしました。不適切な書き込みが多い場合には、会員のみが書き込みできるように、パスワードを発行するように改良致します。

### 大会参加チームからの会費徴収について

2 0 0 8 大会の実行委員会を開催し、大会準備を進めておりますが、2 0 0 7 大会までの実績では、協会会員の参加艇は残念ながら 3 0 % を切る状態です。

協会の意向としては、協会会員が全員でバックアップしていく大会にするために、協会会員のボートが参加する大会と位置付けして、チーム代表者は、協会会員であることを参加条件に追加したいと思います。（非会員のチーム代表者より会費 3 0 0 0 円を徴収する事になる。）

会報の電子化については、着実に進めてゆきますので、ご支援、ご提案がありましたら、協会事務局にメール、下さるようお願いいたします。

## 韓国大会の日程が決まりました

深町得三

会長挨拶の中でも触れていますが今年の韓国人力船イベント「HPVF2008」の日程が決まりました。2008年8月15(金)、16(土)の2日間で、場所は例年通り、フンフンナムド(忠清南道)テジヨン(太田)広域市の1ソ(儒城)区にある科学万博跡地前の河原です。JSHA 大会との間隔も3週間空いていますので、参加予定チームにとっては好都合ではないでしょうか？

問題はこの時期がお盆のピークとなるため、航空券価格が高く、入手も厳しくなることです。参加を検討中のチームは、なるべく早めに安い切符の確保をお勧めします。最短で8月14日出発、17日帰国ですが、せっかくですから、時間に余裕があれば、前後を延長して、観光も組み入れたいものです。

また、西日本から参加予定のチームは、人間だけフェリーで行く手もあります。時間はかかりますが、船旅も風情があってよいものです。車1台に6人程度で行けば、往復の費用は飛行機より2、3割安くなるはずです。

船の輸送に関しては前回の会報でもお知らせしたように、20フィートのコンテナに複数混載して運ぶのが、もっとも効率的なようです。フェリーでカートップすることは、2、3年前から禁止になりました。コンテナ運賃は日本からテジヨンまでの往復で約50万円です。4隻積みめば、1隻あたり12、3万円で済みそうです。

まずは、協会事務局あてに訪韓の意思表示をお願いします。コンテナ会社への取り次ぎと、契約までのお手伝いをします。飛行機とフェリーの予約は各チームで実施してください。早いほど安い切符が取れるはずです。現地の宿泊については、韓国側主催者にホテルを斡旋してもらいますが、こちらはまだ時間の余裕があります。お盆の時期のソウル便はもうすでにかなり予約が入っていますので、参加の意思があれば今すぐ飛行機予約だけでもどうぞ。

現在、チームコギトと、チームビレッジトップから非公式な参加意思表示を受けています。他のチームも参加の検討をしてみてください。追加の渡航情報は、協会ホームページ上に今後随時掲載していく予定ですので、そちらのウォッチもお忘れなく。また、この件に関するお問い合わせは協会事務局あてにメールでも受け付けます。

ジャパン・インターナショナル

## ボートショー2008・in 横浜のご報告

堀内浩太郎

恒例のボートショーが昨年に引き続きパシフィコ横浜で開催されました。コンセプトボートコーナー（正式名はワンダーフィールド）には当協会の皆さんがそれぞれ愛艇を展示されて、ここが会場内でも最も人気の高いコーナーという評判もありました。その様子をご紹介致しましょう。下の写真はスーパーフェニックスの横山文隆さんが展示された美しい木製のセーリングカヌー（右）と水中翼カヤック（左）です。木目とワニス塗りの美しさで、沢山のお客を集めていました。カヌーは見ての通りですが、左の細い船はシングルスカル並の細い船体にサイドフロートを付け、さらに世界記録を立てたスーパーフェニックスの前後水中翼をほぼそのまま取り付けたもので、カヤックのパドルで漕いで翼走させようという野心作です。総重量20kg 予定速度25km/時とありました。しかし横山さんが漕いでは離水できないので、会場で何人か強力な漕ぎ手のあたりを付けていました。



右は都田チャレンジの「ホワイトホーク」の出品です。太陽電池と水中翼で高速性能をアピールしていました。



村上さん一家（上）と昨年のレースで活躍したショーゾー君1号（左）、村上さんはこの後マリンスポーツ財団の笹川会長から表彰を受けました。



向こうのウインドサーフィンのセールが2枚付いた船は金井さんの新艇、合板のシーカヤック2杯を横に連結したカタマランヨットでそれぞれの船体に付けた2枚のセールで帆走します。まだ1回しか走っていませんが具合よく走るようです。

手前の白い船は海用のスカル、一番手前が堀内の船でこれを毎日漕いでいます。駐車場に台を作って保管し、水面までは100m以上カートで引いて行きます。そしてカートにはブイと旗とアンカーを付けて、水上に浮かしておいて漕いでいます。



左は横井さんの新艇フリッパー、2本接ぎで断面が丸くて普通のセダンの中に入れてしまうのには驚きました。横井さんが村上さんに何か説明しています。

断面を丸くしたので軽くローリングが出来るようになったこと、長さを3.45mとし、バウとスターンを絞って且つ軽量にしたのでバランスが良く取り回しが良いようです。

下及び右上下は横山艇の詳細です。天竜杉の角材を型板の上で並べてはぎ合わせたもので、美しく軽量に仕上がるのが特徴です。



当協会の村上正俊さんがボートショー会場でマリンスポーツ財団の笹川堯会長から表彰を受けました。

## Maris

# 平成19年度 マリンスポーツ優秀選手表彰式

日時：平成20年3月9日（日）12:00～

場所：ジャパンインターナショナル ボートショー2008in横浜 イベントステージ

主催：マリンスポーツ財団

後援：国土交通省・日本財団

協力：日本舟艇工業会

### 優秀選手賞

TEAM ビレッジ トップ  
(ショーソー君1号)

チーム代表 村上 正俊  
出身地 静岡県  
経歴 16年



### ソーラー・人カボート部門

2007年全国選手権において、人カボートBクラス（17チームが参加）に出場し、4種目のうち3種目で優勝を果たした。高効率水中フロベラと船体形状の研究および、カーボンファイバー技術の応用、そして地球にやさしい太陽エネルギーの有効活用を目的に、1992年に発足したソーラーボート&人カ船チーム。初受賞

### 人カボートBクラス





上は笹川さんと表彰された全員の写真です。この中の渡部さんは世界選手権でチャンピオンに輝いたようで、(内容下)素晴らしいことです。直接我々の活動とは関係ありませんが下に関係の記事を載せました。

## 👑 最優秀選手賞 ジェットスポーツ部門 プロフリースタイル

渡部 文一  
 FUMIKAZU WATANABE  
 所属 BUN FREESTYLE  
 出身地 広島県  
 経歴 9年



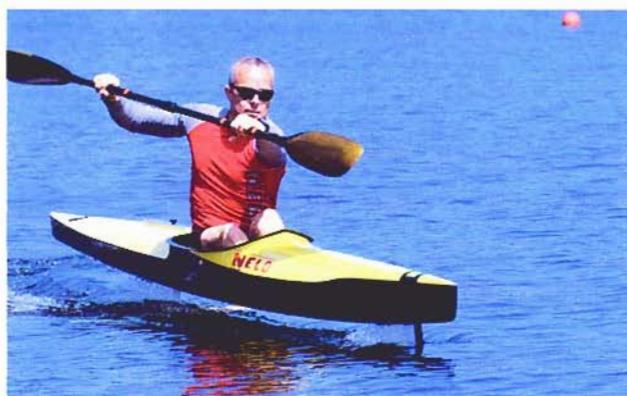
アメリカで開催された2007年JSBA世界選手権ワールドファイナルにおいて、世界チャンピオンに輝いた。また、2007年JJSFプロフリースタイルクラスにおいて完全優勝を果たし、3年連続の全日本シリーズチャンピオンに輝くなど、世界に日本選手の技術水準の高さを広くPRするとともに、マリンスポーツの普及活動に大きく貢献した。  
 平成17年・18年に優秀選手賞受賞

## foilカヤックの発売は5月

会報45号と47号でご紹介したfoilカヤックが発売すると言いながら延び延びになっていましたが、今回5月に発売する旨発表になりました。名前もフライヤック (Flyak) と呼ぶことになるようです。既にプレオーダーを受け付けており、価格は19000ユーロ、日本円では29万4500円 (155円/ユーロとして) です。

この価格には水中翼一式が含まれており、水中翼は中と大から選べるようです。水中翼だけの値段は500ユーロ (7万7500円) です。乗り方を教えるクリニックがあって、費用は300ユーロで12時間の説明と食事、宿泊が含まれるそうです。しかし船を買うとこの金額は返済されます。

幾つかの写真がありますので、まず見て頂きましょう。2年前は船の中に漕ぎ手の腰が船の中に収まる、いわゆるカヤックでしたが、今回発売される船はデッキの上にぽんと坐る、オンデッキタイプの細い船になるようです。



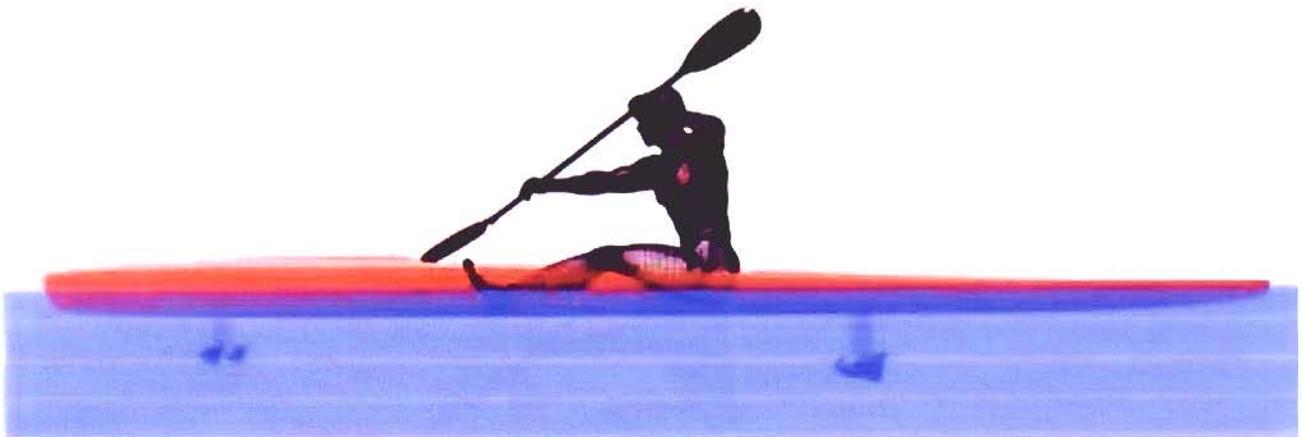
以前の写真 (上) は標準的なレーシングカヤック (K1) だったが今度は下のようにデッキがへこんでいるオンデッキタイプになった。



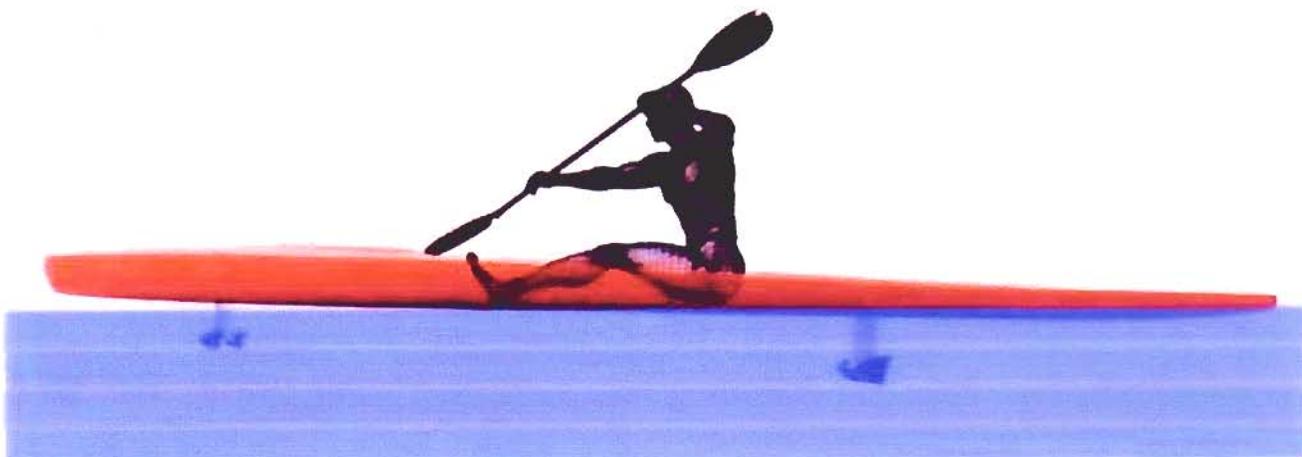


「どうやってフライヤックを漕ぐか」

今のホームページには、下の絵入りの説明がありますので、順を追って見てみます。



10 km/h以下のスローパドリング、この場合安定した普通のカヤックです。



スピードが増して離水速度に近づくとまず前の水中翼が翼の幅程の深さまで持ち上がります。そして船には1度ほど前上がりになります。



離水速度を25%程上回った時にハルはすっかり浮き上がり、フライヤックは1度ほど前のめりになります。



トップスピードでは離水速度より50%以上速くなります。そのときには前後の水中翼が翼の幅より少ない位の深さまで浮き上がり、その時のフライヤックは3度ほど前のめりになります。

**安定** フラップや他のメカニズムは無いのにフライヤックは安定して走ります。翼の深さが翼幅以下になると水中翼の揚力が減ることを利用してフライヤックは自動的に姿勢を保って走ることができるのです。

**操舵** 前の水中翼は舵の働きも持っています。パドラーが足で舵をコントロールします。

**パドル** 225cm のパドルを推奨します。

## フライヤックに関する質問と答え

Q：フライヤックは長距離レースに使えるか？　たとえば50kmかそれ以上の距離でどうだろう？

A：フライヤックは短距離用で100～2000mが良いところ、物理的に長距離を翼走するのは無理がある。

Q：フライヤックに最適なコンディションとは？

A：強い追い風、船の引き波のないこと、藻のないこと。良いコンディションでは10km程翼走することができると思う。

Q：翼走するのにどれほどのスキルとパワーが要るのか？

A：この質問は幾つかのファクターに影響されるので簡単には答えられない。まず使う水中翼のサイズ、体重、体調、パドリングの巧さなど総て影響する。これらのファクターの相互関係をウェブサイトに表示するので見てほしい。

Q：OK これは大きな子供の新しいおもちゃだ、ところで女性はどうだろう？

A：ハイドロfoilカヤッキングはなかなか厳しいバトルで最高の女性パドラーに限り翼走することができる。体重に関わらず500mを2分以内で漕げれば良いが、それだけ速い女性は多くない。これは翼走に必要なレベルの一つの目安である。

Q：これは磯波の中で使えるか？　又大きな巻き波ではどうだろう？

A：今の我々の水中翼配置では磯波では使えない。初期のプロトタイプの段階では我々もフライヤックの磯波バージョンが作れると考えていた。今のデザインを変えて、主水中翼をパドラーの下に移し、支柱を長くし、前の水中翼を舵とスキー（サーフスキーの波デフレクターのような）に取り替えなければならない。将来それは考えて見たい。

Q：ハイドロfoilカヤッキングは認められたスポーツになるのだろうか？

A：勿論、そして200mと500mのレースの形を取るだろう。又トップスピードのコンペを一般的なスピードゲイト技術を利用して行うことができる。そうなれば何回か走らせてトップスピードの高いパドラーが勝つレースになる。

Q：長いパドルが必要ですか？

A：2.18mの普通のパドルを使うことが可能だが我々は2.25mのパドルを使うことを強く勧める。（もしくはもっと長い方が良い、速くなるほど長いパドルが良い）

Q：フライヤックにローイング（漕艇）のメカニズムを装備することは可能か？

A：No, そして将来もその計画はない。水中翼スカルの成功しうと思う、しかしそれには現在禁止されているスライディングリガーを使って漕手の体重移動を減らす必要がある。もう一つは上に述べた磯波バージョンのフライヤックと同様、主水中翼を漕手の下に移し、前の水中翼をスキーかそれと同等の働きをするものに変えるなどの設計変更が要るだろう。

## マイクロトランサットチャレンジその後

会報55号では簡単にマイクロトランサットのご紹介をしましたが、その後英国でのレースが行われていろいろ判ってきたようなので、再びご紹介をしたいと思います。鶴沢さんはこのレースに是非出たいということでしたが、現在は琵琶湖の無人船レースの方に努力を傾ける方針のようです。大西洋横断に先だって昨年9月、英国のウェールズの西海岸アベリストウィスで短距離のテストレースが行われた結果の報告です。

詳細は URL : <http://www.microtransat.org/?lang=en> でご覧下さい。

### 主催者側のコメントと 2007 年の成績

優勝チームはオーストラリアの RoBoat チームで24時間の自律航海を成功させた。コントロールシステムは安定している、しかし大西洋横断のためには大きな改造が必要になるであろう。

訳者注：実際のレース艇は赤い大きな船だと思われる。小さい白い二本マストの船はその前のテストボートであろう。



フランスの ENSICA ボートは残念ながらソフトウェアの故障でそのポテンシャルを証明することができなかった。しかし19時間の自律航海を達成しており、大西洋横断に対して最高のポテンシャルを持っていると思われる。

訳者注：下の写真は ENSICA ボート



カナダの MAST チームはボートのデザインと製作の質が賞賛された。この船は静穏な水面で見事に帆走した。大きな船は大西洋横断でもよく走るだろう。

訳者注：カナダの船は写真がないのは残念ですが、もしかしたら下の写真がそうなのかも知れない。



### レースの説明

このレースは全長4mに制限された船にコースをプログラムして自律航海で2008年の末頃大西洋を横断するという計画です。かなりな難しい命題なので、実施に先だって短距離のテストレースが昨年9月に行われました。その様子の報告です。